

## 薬のことで悩んでいます・・・！

(Sさん)

先日は温かいメッセージをいただき、ありがとうございました。一人では無いと言う力強い言葉、お薬に対してのご意見を聞かせてもらったり、次回の定例会のご案内を連絡していただいたり。また次回の定例会で色々なお話を聞かせていただこうと思いました。

とてもネガティブなメールをしてしまい、そのままの状態でも曜日に新学期を迎えました。前日に学校のことを本人に伝えましたが、やはりかなりの抵抗でした。当日、どうなることかと内心ハラハラしましたが、グダグダ言いながらも水筒を持って家を出る事ができました。

制服に着替えなかったのはせめてもの抵抗と思いますが、泣かずに家を出ることができ、途中で引き返さなかった事には、支援の先生に褒めてもらいました！

そして今日。なんとか短縮授業も終わり、帰っている途中で、いつも一緒に帰っている女の子が、何か言いたそうにしていたので話を聞いてみると、

「1学期に、Yくんに叩かれたことがあったんやけど、その時に赤くなってん。」と、話してくれたので、

「1学期はいっぱい叩いちゃったもんね、ごめんね！」と、私があやまると、

「ちがうねん。あの後、赤いの治ってたのに、その上から赤いクレヨン塗っちゃってん。そのことを謝りたかってん。ごめんなさい。」と、言って謝ってくれました。

私は、なんと言ったらいいのか、あまりなかった経験だったので、「いいよ！Yが先にたたいたんやから。」と、しか言葉が出て来ませんでした。

ずっと心に思っていたのか、何かの拍子に思い出したのか、それは分かりませんが、とてもくるしい気持ちを心に秘めてたのかな？と、切ないのと、ありがとうと言うのとで、なんとも言えない気持ちになりました。

仲間って、いいなあともまた思いました。

お薬の件で、私の気持ちをお伝えさせていただきたいと思います。

薬に対して私が抵抗を感じ始めたのは、次女を有名だと言われている先生に診ていただいた時からです。そこはなかなか予約の取れない病院でしたが、大学病院で紹介状を書いていただいて、なんとか見ていただく事になりました。

まずは問診、発達検査、脳波検査を受けました。結果は発達障害の傾向で、診断はつきませんでした。お薬が出ました。絶対安全だからと言われ、とりあえず試してみる事になりました。

その時に姉弟の話になり、長女と長男の話をする先生が大変興味を持たれ、三人とも見たいから、予約を入れてくれると言われましたが、もうちがう病院に通院していたのでその話は無くなりました。そのやり取りでなんとなく不信感を覚え、結局お薬もやめて通院もやめました。

その頃、長女の中学校の支援学級の生徒で暴れたり、ものを投げたりと大変な生徒がいたので問題になっていました。子供や先生から話を聞くと、薬の副作用で気分が悪くなったり、頭痛があったり、眠くなったりと大変だと分かりました。そして何より量が多かった事に娘は驚いていました。

後で聞きましたが、その生徒が通っていた病院が次女が行った病院と同じでした。

でも、薬は辛い症状を和らげてくれて、日常生活をスムーズに過ごせるための手助けになると言う事も知っています。次女は薬で助けてもらった事もあるので実感しています。

ただ、Yに今必要なのか？と言われると疑問があり、主治医もまだいいと思うよ。と言って頂いている。だったら今は…と、思っています。

まだまだ薬に対しても勉強不足で、飲んでもいないのに…と、言われることもあります。来年は服用を始めているかもしれませんが、この先は分かりませんが、これが今の気持ちです。

今日、聞いた話ですが、一回注射すれば1カ月間落ち着いていられる薬があるらしいです。本当かどうかは確認が取れていませんが、その話をしてくださった方は「怖いなあ…」と、言っていました。私もそう思います。

毎回毎回長くなってすみません。

新学期、親の心配をよそに三人とも元気に登校できました。これからまた色々あると思いますが、それぞれのやり方で頑張っていきたいと思います。

(Mさん)

「薬は、どんな薬でも毒です。けれども、毒を持って毒を制さざるを得ないこともあります。どんな場合でも、薬は毒だということを自覚して使うことが必要です。」というようなことを、石川憲彦さんから聞いたことがあります。私自身、今、心臓の薬を服用していますが、その言葉を常に意識しています。

昔、養護学校の教育実習に行っていた時、仲間が「大声をあげて走り回っている子がいたけど、担任が腰に下げた袋の中から薬を出して『じきに静かになるで』と言って飲ませたら、すぐにおとなしくなって無気力になってしまった。養護学校というところは恐ろしいところだと思った」と話していました。

また教員になってからは友人の「重度・重複」学級の担当が、「子どもが飲まされている薬（癲癇発作を抑える薬）を自分も試しに飲んでみたら、どこをどう通って帰ったかわからず帰宅したとたんに倒れて眠ってしまった。起きてもしばらくはボーっとしていた」と語っていました。

向精神薬というのは、何でもない人には本当に恐ろしいものです。ましてや「一回注射すれば1カ月間落ち着いていられる薬」などというのは「ヤク・ドラッグ（麻薬）」と言っても過言ではないでしょうか？

友人のようなことは、私にはとても恐ろしくて出来そうにもありませんが、本当はそれくらいの覚悟で飲ませるべきかもしれません。タバコは毒だとは誰でも言います。でも石川さんから聞くまで、薬は毒だとは思ってもみませんでした。「すべての薬は毒だ。」というのは全くその通りだと、今は私もそう思っています。

「ちがうねん。あの後、赤いの治ってたのに、その上から赤いクレヨン塗っちゃってん。そのことを謝りたかってん。ごめんなさい。」って言うてくれた子、すてきな子ですね！

「赤いクレヨン塗っちゃってん。」っていうのが、思わず笑ってしまいました。

私なら多分「すごいね！本当のこと言えて…私なんか到底あなたのように本当のこと打ち明けられなかったと思うよ」と言うのではないかと思います。だって本当にそう思ったのですから…こんな素敵なお話、また聞かせてください！

(Sさん)

メールをありがとうございました。

お薬は飲んでいても、沢山の気持ちを持ちながら服用されていること、軽く飲んでいる人ばかりでは無いという事を知る事ができ、やはり周りに流されて服用は絶対ダメだ！と思いました。

Mさんの、「薬はどんなものでも毒だ…」と、言う言葉と、Iさんの「周りに迷惑がかかるから飲ませるのは論外ですよ」と言う言葉が胸に刺さりました。

飛び回るのもYだし、泣いて怒るのもY…、それをただ周りからの見た目の為に薬でそれをコントロールする。恐ろしい事ですね。それは、Yでは無い気がします。

でも、娘さんのように自分を傷つけてしまったり、命に関わる時はたしかに補助として服用する。私もこの意見には納得できました。本当にそうだと思います。

そして、「毒」である側面も心に留めておかなければいけない、そう思いました。

私の知っている、見ている世界はとても狭いので、もっと色々なことを知って、勉強しないと！というか、もっと知りたい！と思いました。

(Mさん)

「変毒為薬」という言葉もあります。

薬は毒と知ったうえで、毒(薬)を使いこなせるようになりたいものですね。

(Tさん)

娘は、てんかんの薬以外は飲んでなかったのがあまりよくわかってないのですが……

私の教室で、明らかにADHDかな？というお子さんがいます。ある日突然静かに集中して学習するようになったので、もしやお薬を飲むようになったのかしら？と、思っていたら、懇談の際にお母様からADHDの診断を受けてお薬を飲むようになりましたとの報告を受けました。

いつも「やる気にならへん」と転がっていた子が、集中して学習できるようになり、本人も満足げなようす。彼の場合は良かったのかなと思います(薬が効いていないときもあるのですが)。

Iさんのおっしゃる通りまわりに迷惑をかけるから……のお薬はダメですよ。本人本位で考えないと感じていますm( )m

(Aさん)

精神の薬のことと、話が違いかもかもしれませんが…息子は點頭てんかんの発作が時々あるので薬を2種類のもんですが、落ちついてます。発作をゼロにしようとする、寝てしまうような強い薬になるし、ほどほどに安定する薬を調整するのに、最低一ヶ月はかかります。人によっては、何年か調整にかかる場合もあるみたいですね。

追伸、今おかれてる状況に一步立ち止まって冷静に考えたり、疑問に思ったり、失笑してみたり(笑)することは大事ですね。個々の性格にもよりますが…。

(Yさん)

我が家も、服薬については悩みの中にいます。

長男はコンサータを継続して服薬しています。本人が、「飲んだら落ち着いて過ごせる」ということで、服用してますが、長期的な服用の副作用はどういうものか？については、医師にも分からないようです。

長期服用のデータが無いのは、なんとも不安です。

これからも、薬についての知識をしっかりと入れていく努力をしていこうと皆さまの書き込みを見て思いました。

(Sさん)

先日は薬について沢山の皆さんの気持ちを聞かせていただきありがとうございました。

薬を服用するという事、その行為にこれほどの親の思いや感情があると言う事、その大切な気持ちを沢山聞かせていただき本当にありがとうございました。

我が家は三人ともなんらかの薬を服用していますが、とりあえずもらったから飲んでおこう…、これをやめることにしました。

アレルギーや、どうしてもというものだけにしようと思います。

府立高校の件ですが、娘も驚いていたようです。どんどん高校が減っていくなあ…と、二人で話していました。

M市から公立の幼稚園を無くす方向だという話が出た時を思い出しました。その頃、ちょうど長男が公立の幼稚園に通っていたので驚き、みんなで署名を集めて活動した事を思い出します。結局は公立幼稚園は全て無くなり、認定こども園という形になりました。

小学校に上がる際、保健センターの方に、「支援学校で力を伸ばしたほうがいい。その方がこの子の為だ」という内容を言われたことがあります。

あの頃から変わっていないんだな…と、感じます。

同じ療育園仲間にも、「重度の子が地域の小学校に入られたら、こっちに手が回らなくなるから困る。正直そういうのは親のエゴだと思う。」と、いうお母さんがいました。

障害を持っていると言われる子供を持つ親の中でも、こういう発言が出るのは、つらいです。

薬のこと、手帳のこと、進学のこと、色々と考え、意見をいただいて、今感じるのは、やはり本人の意思を尊重すること、伝えようとしている気持ちを聞くことが大切なんだとおもいます。